



岡田

学校教育目標

10年間を見通した確かな学力と
豊かな人間性の育成

目指す子ども

ふるさ加佐を愛し 夢 未来に向かって歩み続ける子ども
～笑顔で いきき 自分から～

平成30年10月31日

舞鶴市立岡田小学校
学校だより No.8

<http://okada-es.maizuru.ed.jp>

深まる秋…食欲？勉強？・読書？

運動会では、台風25号の進路がそれ、直接的な影響はないかに思われましたが、希望的観測とは裏腹に、小雨が降り続くあいにくの天候となりました。しかし、雨にも負けない岡田っ子の活気あふれるがんばりで、一部の競技を取りやめながらも、閉会式まで実施することができました。多少無理もしましたが、一生懸命練習してきた成果をご覧くださいことができました。保護者・地域の皆様には早朝よりご来校いただき、子どもたちに温かいご声援をありがとうございました。素晴らしい姿が見られましたのも、ご家庭での健康管理や励ましがあつたからこそと思い、感謝申し上げます。お寄せいただきましたご意見を反省として、来年につなげたいと思います。



【4・5・6年生の組体操】

さて、運動会の頃はキンモクセイが甘い香りを漂わせていましたが、秋も徐々に深まりを見せ、今は銀杏の実がたくさん実つてもうすぐ黄色く色付いてきそうな気配。緑が多い山の木々も間もなく綺麗な紅葉の時季を迎えようとしています。

本校は「自分から動き出す児童の育成」を目指し、「言語活動を通して説明する力を育てる」ことをテーマに授業づくりをしています。授業など学校生活での子どもの様子見ていますと、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の気持ちを感じ取ったりすることが少々苦手であると感じます。表現力や語彙は、子どもの発達段階に応じてそれなりに高まるものですが、何もしないのに、自然に豊かな言葉の使い手としての力が身に付くわけではありません。

高度情報化社会の到来が声高に言われ、スマートフォンなどICT機器の充実によって、多種多様な情報が簡単に手に入るようになり、生活は確実に便利になっています。しかし、活字や生きた言葉に接する機会が少なくなっていることも確かです。子どもたちが日常的に接し使っている「言葉」も、少しずつ変化してきたように思います。言葉を使わなくなったというのではなく、必要最小限の言葉しか交わさなかったり、極端に簡略化された言葉ばかり使ったり、昔から使われてきた言葉が通じなくなったりと、「言葉の変化」は日常的に私たちの生活のいたるところで起こっています。言葉に対して無頓着な場面にもたくさん遭遇しますし、今で言う「若者言葉」に至っては、もう昔の感覚では太刀打ちできません。「今日のカレーの味、ムッチャ やばい！」なんて表現もします。以前は「そんなにまずいカレーなのか!？」と心配しました。もう慣れましたが、今の子どもたち(若者)はよい時も悪い時も両方に使うものだと思って、相手の表情で判断しています。私も言葉の使い方に自信がありませんし、間違った使い方をしていることも多いと思いますが、大人の日常生活の中でも、言葉の使い方が変わってきたなあと思うことがたくさんあります。例えば「大丈夫…」という言葉。「もっと食べますか?」「大丈夫です。」…? 「今日の午後にでも相談しましょうか?」「大丈夫です。」…? 言葉は時代とともに変化し、昔の言葉も、そのまた昔からするとずいぶん変化していることを考えると、「言葉の変化」は時代の流れにあつて、当たり前のことかもしれません。でも「言葉」は、自分の考えや感情を相手に伝えたり、相手の気持ちを思いやりながら理解したりする重要な役割を持っています。情報が豊富にあり伝達手段が簡単になることはよいことだと思いますが、言葉を紡ぐことや、自分の経験や相手の立場と結び付いた言葉を大切にしようとする心が希薄になると、他人とのコミュニケーション力が育たないばかりか、相手の気持ちを推し量って感情を理解する力が育たなくなります。

加佐中学校区小中一貫教育の一環として「読書活動」の推進に努めています。PTAの取組として、文化部の皆様にも中学校区で読書活動の推進にご協力をいただいております。学校でも、毎日の「読書タイム」や主任児童委員の方の低学年読み聞かせなど、読書活動の推進に向けて取組を進めています。豊富な読書体験は、子どもの想像力を育て、様々なことに興味を持つとともに、「言葉」の力を伸ばし、語彙を豊かにし、読解力や思考力、表現力を高めるためにとっても大切です。先日のプロ野球ドラフト会議で話題になった、大阪桐蔭の 根尾 昂 選手は無類の読書好きで文字通りの文武両道だとか…。子どもたちが豊かな言葉の使い手になるために、学校や家庭で読書の習慣が身に付き、楽しさが広がることを願っています。



小中一貫で子どもを育てる…⑦

小中一貫授業研究会

10月3日(水)には、小中一貫教育の取組として「低学年授業研究会」を実施しました。加佐中学校・由良川小学校の教師も交え、本校の1年生の算数の授業を公開しました。多

くの児童が自分の考えを発表するなど、生き生きとした表情で一生懸命学習課題に取り組む児童の姿をとおして、授業改善の研究が深まりました。

校長 波多野 暢 教職員一同